

平成 23 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：研究会「ニュートリノ」 英文：Neutrino workshop
研究代表者	梶田隆章（東京大学宇宙線研究所 教授）
参加研究者	南方久和（首都大学東京 教授）、 谷本盛光（新潟大学理学部 教授）、 奥村公宏（東京大学宇宙線研究所 准教授）
研究成果概要	<p>平成 23 年度は「ニュートリノ」研究会を以下の通り開催した。</p> <ul style="list-style-type: none">開催日：2012 年 3 月 29 日場所：宇宙線研究所大セミナー室趣旨：2011 年 T2K 実験より、有限の 13-角を示唆するきれいなデータが報告された。また MINOS, Double-CHOOZ も同様な 13-角を示唆するデータが報告され、更には以前から言われていた太陽ニュートリノ実験と KamLAND の 13-角の示唆もあった。更に 2012 年 3 月 8 日に Daya Bay 実験が 13-角に関する結果を発表した。このような状況で今回の研究会では 13-角に関連する実験結果を確認し、今後の実験の発展の方向性や、割合大きい 13-角を受けてのニュートリノ混合のモデルの可能性について議論した。参加者数：(主催者側で把握した範囲で、34 名。)研究会内容の公表方法：ニュートリノセンターホームページ： http://www-rcen.icrr.u-tokyo.ac.jp/nu-meeting/nu-meet25.html <p><u>プログラム</u></p> <p>10：20－11：00 T2K（中山祥英、宇宙線研） 11：00－11：40 Double-CHOOZ（末包文彦、東北大） 11：40－12：20 Daya Bay（Shaomin Chen, Tsinghua Univ.）</p> <p>昼休み</p> <p>13：10－13：50 RENO（Soo-Bong Kim, SNU）</p>

13:50-14:30 What is the impact of the observation of θ_{13} on the neutrino flavor structure?

(谷本盛光、新潟大)

14:30-15:00 Atmospheric Sterile Neutrinos (浅贺岳彦, 新潟大)

コーヒー

15:20-16:00 Hyper-Kamiokande: 大きい θ_{13} 角の示唆を受けて

(塩澤真人、宇宙線研)

16:00-16:40 What can we hope on neutrino physics at the LHC?

(杉山弘晃、立命館大)

16:40-17:10 Realization of thermal inflation in SUSY

discrete flavour symmetry model (長尾浩明、新潟大)

17:10-17:40 Neutrino diffraction (石川健三, 北海道大)

整理番号